いわむろ

発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K.K
No.201

岩室村の人口

（11月30日現在）　前月対比

男……	4,408人	（－1）
女……	4,847人	（－7）
計……	9,255人	（－8）
世帯数……	2,206世帯	（＋2）

（住民基本台帳による）

▲改築され，立派な施設で遊ぶ，間瀬保育園の園児たち

賀正

あけましておめでとうございます。

今年はひつじ年。この干支（えと）ひつじからは、のどかで牧歌的な情景が連想されます。昔はたいていの農家に一、二頭いたものですが、現在では滅多にその姿を見ることができません。

今の子どもたちは、"ひつじ"から何を連想するでしょうか―。お正月の一家だんらんのひとときに、こんな親子の連想ゲームでお互いの心を確しかめ合うのも意義があるのではないでしょうか。

澄んだ目、けがれを知らないこの子どもたちが真竹のようにたくましく成長するために、昨年は、保育園施設などの増改築を完成させるなど子どもたちのための教育環境の整備がはかられてきました。

この子どもたちの喜々とした顔、豊かな表情に、新春のすがすがしさが感じられます。

今年は待望の公民館の完成がみられます。また、合併二十周年の年でもあります。

"ひつじ年"にあやかり、昨年にも増して平和で、飛躍の年にしたいものです。

ことしのえと（干支）は、ひつじ

えとは昔、中国で十干十二支を組み合わせて六十の周期で日や年月を数えたものですが、十二支に、動物をあてはめたのは後代になってからのことといわれています。

いま日本では旧暦は使われませんが、その年のペットネームのようなかたちで動物のえとだけが親しまれています。

とくにコマーシャルベースで、えとが盛んに愛用され、去年の秋から暮れにかけては、ひつじが、"撮影モデル"としてひっぱりだこ。牧場にもカメラマンがぞろぞろ。ひつじたちが「メェーワクだ」と鳴いたかどうかは知らないが……。

ところで、せっかくのひつじ年も、羊毛業界にとっては、もうひとつさえない足かけ三年越しの不況カルテルがつづき、大幅な操業短縮のままひつじ年を迎えました。

このひつじ年、実は日本の羊毛工業百年の記念すべき年なのです。というのも明治十二年、陸軍が東京千住に毛織物の製造所を設け軍服を作ったのが日本の毛織りの始まりとか。ヒツジ年の正月、ゾウ煮はやめてジンギスカン焼きで祝いますか、その方が、ヤングに受そうだし。

今年はひつじ年